

エッセー 自然が育む力

春の草花が咲き、木々に田んぼに行こうという新芽が初々しいとき 感覚はなくなりました。な季節ですね。ブラッと子どもにとって「ふるさ歩くだけでも気持ちがいとの学びと触れ合いのいもの。私の原体験の中場」があつてこそ、心のでも田植え前の田んぼの豊かさと器の大きさがつ生き物は、強烈に記憶のくり出されます。春の忙中に残っています。見て しい今だからこそ、ぜひいるだけで楽しく、生き 短い時間でも散歩に出掛物との触れ合いは驚きと けましよう。発見の連続でした。せつかくですので、地

地域が大好きになる散歩術 ディスカバリー ウォーキング

短い時間でもよいので次旅」(ディスカバリーウのことを意識し、大げさな自然体験のプログラムに言つと「地域発見の

短い時間でもよいので次旅」(ディスカバリーウのことを意識し、大げさな自然体験のプログラムに言つと「地域発見の

短い時間でもよいので次旅」(ディスカバリーウのことを意識し、大げさな自然体験のプログラムに言つと「地域発見の



住み慣れた地域の中を散歩してみよう。小さな発見は地域を好きになる第一歩

楽しい。気持ちよいなど。③その地域の特別な物を意識して見る。

(例)お地蔵さんの顔。神社の由来。水がどこから流れてくるかなど。

この三つのことさえ意識すれば、散歩が楽しく長続きします。最近、健康のためのウォーキングがはやっていますが、目的の地と距離を意識することが多く、私は歩く途中で出会うものや小さな発見を楽しむ意識が加味されれば、もっと気軽に楽しめるのではと考えています。特に地域発見というキーワードは、地域を好きになる第一歩でもあるのかもしれない。

(尼崎市立美方高原自然の家所長 田中誉人)